

一ウロチトマリ 會所^{○中} 海岸南請西北は山あり、暖地にて凌方宜^{○中} 蝦夷家百三拾三軒、總人數五百五拾貳人、内男貳百五拾壹人、女三百壹人

東蝦夷地^{エトロフ島}大概書

寛政十一己未年御用地被^{仰出}同十二庚申年新規開發、エトロフ島北極出地^{度十分フウルヘツ}四十六度^{アトイヤ}此島未申より丑寅に流れて、周廻凡二百餘里、南はクナシリ島に渡り、北はウルツフ島に連り、東西は大洋にして、島中には高山並び峙ち、蝦夷村は西浦にありて、東浦には近來土人住居なし、松前より行程凡三百里なり、總蝦夷村拾三ヶ村、同家數百八十六軒、人別九百九十四人、内^{男四百八十八人、女九百六十八人}

郡邑

〔蝦夷志〕蝦夷

松前[○]治城、介居山海之間、東西各有港口、諸州賈舶所幅濶也、東至黑岩、西至乙部、去此以往陸行路絶、西南海上三島、在南曰小島、其北曰大島、又其北曰奥尻、從此至乙部十八里^{奥尻島南北二十有五里}、凡松前地界東西相距八九日程、其北則爲夷地矣、夷人亦皆濱山海居、往々而成聚落、其邑聚左者五十四

〔蝦夷實地檢考錄〕松前

東は及部川より、西は總社堂町まで、北は山麓を限り、松前城下の幅員とす、寅向泊川枝ヶ崎大松前小松前唐津内博知石生符を緯とし、傳次澤神明澤湯殿澤唐津内澤を經とす、然れども白神より立石野までの大灣濃の内は、一望眸中に在て、應接呼吸の續く所なれば、截て別區と爲べからず、地名考に方言ヲアツナイにて、ヲは有といふ意、マツは婦人、ナキは溪澤也と説は、誰も思よるほどのことにて、考とするに足らず、或説に昔はマトマへと云へり、松に非ずとすれど、マトはマツの通聲にて、猶松なり、亦一説に、鞅鞅の訛音なるべしとするは、殊に忌しき僻言也、按るにマツは松樹、マへは前なること論なし、蝦夷は松なき國といふ説もありて、地名は國のひらけし始よ